

令和6年度 「学校関係者評価」

	<p>項 目 (重点としたものに○)</p>	<p>自己評価 (学校の目標達成状況及び学校の取組の適切さ、改善方策について等)</p>	<p>外部評価者からの意見・指摘</p>
<p>教育環境の充実</p>	<p>①学校安全の推進 ○</p>	<p>今年度は、日程の調整ができ、文化教育ゾーンの合同防災訓練（津波想定避難訓練）に本校の避難訓練として一緒に行った。その際、施設利用者と共に、体育館への全校避難（垂直避難）を久しぶりに行った。コロナ禍以降、全校が体育館に参集する機会がほとんどなかったため、大変いい機会となった。昨年1月1日に能登半島を襲った地震以降、かなりの規模の地震が各地で続いていることもあり、年度に1回は同様の避難訓練の必要があると感じている。無差別の殺傷事件が発生している。学校施設内で起こった事件ではないものの、不測の事態を考えると不審者に対する対応の準備の必要はある。今年度も職員向けの不審者対応訓練と児童向けの不審者対応訓練を、逗子警察署のご協力を得て実施できた。署員の助言からさすまたを各学年のフロアに増設し、不測の事態に備えることができ、学校安全の推進となったと考えている。</p> <p>安全・安心を最優先に考えていることが、全ての教職員に浸透していると実感している。定例の職員会議の際に、たとえ短い時間であったとしても事故防止会議は流さず行った。不祥事防止に関わる事案が中心になってしまったが、全国で話題になっている案件や学校や地域で発生した事故もタイムリーに取り上げた。本校における同様の事故発生の可能性や仮に発生した場合の対応等を自ら意識し考えられるよう指導した。</p>	<p><b>①学校安全の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●学校での児童の生活においては安全・安心が最も重要であることから、不測の出来事に対する定期的な訓練が行われていることは非常によい。各種の災害に対する訓練を、毎月テーマを指定して実施したい。</li> <li>●児童の自宅の倒壊などに対応する備品や設備についての確認が行われていることが望まれる。</li> <li>●逗子警察の協力による不審者対応の訓練及びその指導に基づく素早い備品の増設は評価できる。</li> </ul>

	<p>②教育情報化の推進</p>	<p>授業における ICT 機器の活用をどの学年・学級でも積極的に行っており、かなり進んでいると考えている。授業外の活動（委員会活動等）でも、様々な場面での活用があり、使おうとする意欲が教員にも児童にもあると思っている。PC やタブレットを校務の中で使用する場面も多く見られ、校内研究の公開授業の参観の際も、情報共有の手段として用いており、校内研究の在り方も時代に合わせて変化していると思っている。しかしながら GIGA スクール構想で導入されたタブレットの破損が多発し、修理を余儀なくされている状況が続いている。修理が滞っている状況が続いておりタブレットが足りない。授業に支障が出ないように教員のタブレットを貸し出しているが、推進の妨げになっていると言わざるを得ない。</p>	<p><b>②教育情報化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ICT 機器の導入が進んでいるだけではなく、教職員や児童が率先して使用していることが高い評価に値する。</li> <li>●一方で、ICT 機器の導入や推進によって、それ以前にはなかった問題点がないか検証する機会がもてると良い。 *よくあるケースとして、多くの情報が簡単に送信できるため、情報の送信が過多になり、受信者がその情報を確認できていない場合がある。また、教職員のプライベートな時間を大量の情報が奪ってしまうことも問題である。</li> <li>●タブレットの破損は修理アベレージに対して多いのか。物は壊れるので、破損そのものは仕方ないとも思う。</li> </ul>
	<p>③地域との協働推進</p>	<p>今年度も地域で行われている会合にはできるだけ出席し、顔の見える関係性の構築に心がけた。また、地域の方々を外部講師としてお招きし、学びが深まるよう全学年で努めている。専門的な知識やスキルをお持ちの外部講師の活用は、児童により刺激を与えることができている。地域との協働が進んでいるとはいえないが、地域との繋がりは維持できていると感じている。また、近隣の保育園・幼稚園に本校の体育館と校庭を貸出し、運動会を開催した。地域との協働に繋がるきっかけにはなっていると考える。 コミュニティ・スクールの導入に向けては、西部地区管理職ミーティングに参加させていただき、中部地区の導入に見向けての参考としている。本校の学区は、2 中学校区に跨</p>	<p><b>③地域との協働推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公立小学校は地域との連携によって成り立っていることから、さまざまな点で協働の活動があることが大変良い。</li> <li>●地域の資源を積極的に活用し、児童がたくさん経験をする機会を提供して欲しい。</li> </ul>

		<p>っているため、他の7校と違った難しさを感じている。年度が変わる前に、中部地区の他の2校と来年度に向けての事前の打ち合わせをすることが話題になっている。</p>	
	<p>④学校評価を生かした学校づくり</p>	<p>今年度は、昨年度末にいただいた学校関係者評価委員による外部評価の指摘事項を学校経営方針に盛り込み教職員に提示した。盛り込んだすべてを達成したとは言い難いが、ご指摘を意識しながら学校経営を行ってきたつもりである。外部評価の指導事項親や保護者アンケートによる評価を念頭に置くことは学校づくりにおいて不可欠であると考えてるので、年度末にいただいた評価を次年度の学校経営に生かしていきたい。</p>	<p><b>④学校評価を生かした学校づくり</b></p> <p>●評価委員の一人として、評価を生かした学校運営が行われていることは大変うれしいことである。同時に保護者アンケートに真摯に耳を傾けている様子がうかがえて大変良いと判断できる。</p>

<p>一 学習指導の充実</p>	<p>①授業改善の推進 ○</p>	<p>この数年、情報活用能力の育成について校内研究を進めてきたが、今年度から国語科を中心とした授業改善の研究にシフトすることとした。国や県が推奨している（高学年）専科や授業交換を積極的に取り入れ授業を行ってきたが、今年度は国語科の授業は学級担任が行うこととし、学年の教員全員で同じ教科の教材研究・教材準備を行い、国語科の授業の在り方を研究し授業改善に努めた。まだ、1年目の取組なので、成果と言えるものがないが、次年度以降も比較的長いスパンでこの研究を継続していきたい。</p> <p>有志教員で企画した「ミニ研修会」は、全ての会が授業づくりに特化した内容ではなかったが、成功例や失敗例を話題に、経験の異なる教員がざっくばらんに話ができて、授業改善のための有効な機会になったと思っている。時間を捻出することが難しいが、次年度も継続していきたい。</p>	<p><b>①授業改革の推進</b></p> <p>●教育改革は日本中で今までずっと語られているテーマであるが、大きく変化していないと感じる。または、変化が見られたと同時に、さらに次への変化や、元に戻るという変化になってしまっている。</p> <p>教育の目的となることを明確にして、<u>何のための改革を行うのか</u>という「目的」についての議論から始める必要があると思う。</p> <p>短期間での改革よりも100年先を見据えた議論を期待している。</p> <p>●教育が時代に追いつけていない。Youtubeの動画を目の前で見せると子どもができるようになった。ボトムアップが教師の役割。</p> <p>海・山のリソース、たてわりなどいろんな人と接して欲しい。けんかやトラブルがあっても当たり前。勉強と併せて、いろいろな人と接する学習を豊かにしてほしい。調査の結果では、海などで体験させたいという理由で逗子に移住された方が多い。</p>
------------------	-------------------	---	---

	<p>②健康体力づくりの推進</p>	<p>昨年度の学校関係者評価委員会の皆様から、『体育の授業での体力づくりには限界あるため、児童の「遊び」や日常の生活の中に、体力づくりの機会を確保することに注目をしてほしい』とご意見をいただいた。学年によっては、フレスコボールやアルティメットなどの競技の専門家にご指導いただき、子どもたちの興味関心を刺激する試みを行ったが、学校全体として健康体力づくりを意識した取り組みを行ったとは言えなかった。日常的な取り組みを促すためには、体育委員会などを巻き込んだ組織的な取り組みの必要性を感じている。</p>	<p><b>②健康体力づくりの推力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●『体育の授業での体力づくりには限界あるため、児童の「遊び」や日常の生活の中に、体力づくりの機会を確保することに注目をしてほしい』との意見は見事に的を射ていると思う。体育の授業は週に3時間ほどになるが、週7日間(24時間×7日)168時間対してあまりにも少ない。</li> <li>●学校生活の中で、単発のイベントとしてではなく、また単なる遊びではなく、全員が毎日6年間続けて行わなければならない活動を考案することが重要だと思う。</li> </ul> <p>例：毎朝500～1000mのジョギングをして、6年間でどのくらい走ったかを認定する活動等。</p>
--	--------------------	--	--

	<p>③体験活動の充実</p>	<p>今年度も多くの外部講師を招聘し「出前授業」を実施した。その中で体験活動も多く実施した。夏季休業中に開催しているサマースクールは、講座数を制限したものの体験活動の機会を提供することができた。講座によって人数の差はあるが、児童のニーズがあることがわかる。サマースクールに係る準備や運営をコーディネーターの皆さん中心に行っていただいたので、一部の職員に負担がかかることなく、管理職のみの負担で実施することができた。コミュニティ・スクールが立ち上がる令和8年4月より前は、学校支援地域本部を並走させることになっているので、次年度も今年度並みにサマースクールを実施し、児童の体験活動の機会を提供していきたい。</p>	<p><b>③体験活動の充実</b></p> <p>●小学校教育においては体験を重視した活動が最も重要であると言われている。左記のような充実した活動は高い評価に相当する。特に、体験活動の実施には準備や実施当日の支援が必要になるため、教員の負担をいかに軽減するかが問われるが、コーディネーターの参加での軽減が図られている。</p> <p>ただ、管理職の教員の負担が気になる点である。</p>
--	-----------------	--	--

	<p>④今日的課題への 取り組み</p>	<p>小学校教育における今日的課題として、①学力の格差 ②いじめ問題 ③多様性の尊重 ④デジタル教育 ⑤心の健康 ⑥環境教育 などがあげられる。それぞれの課題を各学年で意識し、学年・学級として取り組んではいるが、学校全体として取り組を進めているとは言い難い。その中で、助産師を講師に招き、性教育の学習機会を全学年に提供できた。発達段階によってその提示方法などが難しく、賛否両論ある中で難しさを感じるものの、子どもたちが自らの心と体を守るために必要な学びであったと思っている。逗子市内の公立の学校全体にも、この学習が広がっているので、子どもたちが正しい知識と行動を身に付けることができるよう引き続き実践していきたいと考えている。</p> <p>⑥の環境教育は、5年生の総合的な学習の時間の中で、SDGs をテーマに探求を深めた。外部講師の方々からのご協力を得て、持続可能な社会を築くための学びに繋がったと思う。</p> <p>③の多様性の尊重は、2年のイケゴエレメンタリーとの交流において実践できたと考えている。異なる背景を持つ子どもたちが学んでいる環境がこんなに身近にあることを知ることができたと思っている。</p> <p>新たな今日的な課題は、目まぐるしく生じていくが、タイムリーに取り組んでいきたいと考えている。</p>	<p>④今日的課題への取り組み</p> <p>●左記の①～⑥の6点を挙げているがどの学校でも対応が難しい課題ばかりである。</p> <p>特に性教育については常に賛否両論があるが、児童が自分自身の身を守るための活動として、助産師を招いての学習は十分に意味がある活動と考える。</p> <p>いじめ問題や心の健康なども10件十色の対応が必要であるため、教員のみでは解決できない問題であると思われる。専門的な知識や経験のある方のサポートが必要だと考える。</p>
--	--------------------------	--	---

<p>＝ 支援 の 充 実</p>	<p>①支援環境の充実 ○</p>	<p>今年度は、教職員の数が充足していたので、教育相談コーディネーターを昨年度の3名体制ではなく、専任にすることができた。そのため教育相談の窓口をほぼ一本化にすることができ、教育相談コーディネーターを中心とした校内連携や外部連携を進めることができた。専任と言っても、学年代表など重要な役割を担ってもらわざるを得ず、ネットワークの妨げになっていたことは否めない。次年度に向けて、より動きやすく機能する体制を構築していきたい。</p> <p>支援環境の充実に向けては、児童指導支援部を中心に努力している。本校の環境（オープン教室や教室不足など）を物理的に改善することは難しいが、特別支援学級所属の児童の増員に伴い、通常級の教室に壁を作り、転用することで対応していく予定である。校内支援センター（リソールーム）の開設も設置する場所の問題があり、頭を悩ます課題ではあるが、知恵を出し合って早期に開設したい。</p>	<p><b>①支援環境の充実</b></p> <p>●専任の教育相談コーディネーターの確保は非常に評価ができる。人的な環境の向上はあらゆる場面で効果をあげることができる。この点は高評価である。</p> <p>教員があらゆることを行うのではなく、専門的な力を有する人の支援を得られるような教育行政や教育環境が求められる。</p> <p>●特別支援の環境を維持するためには、対応する人材と適した空間が重要である。その点において、空き教室や教室を分割するなどの案を絞り出して対応しようとしている様子が見えがえる。</p> <p>●特別支援学級在籍児童が増えたのは、基準が変わったのか。個人的に思うのは、能力の高い子どもたちも在籍しているので大切にしてほしい。若い頃からいろんな人がいるということを知るのがいいと思う。</p> <p>●学校でトラブルに際した際、保護者が転校を考えるとときもあると思う。あるいは、居場所となるところを探すと、料金が高かったりする。親が仕事を辞めるなどは、避けたい。高校生くらいになると逃げ場所はいくらでもある。小学校児童が使える居場所となるところが増えるとよい。</p>
-----------------------------------	-------------------	---	---

	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p>	<p>教育相談コーディネーターを専任にすることができたので、旧うるフレームを活用し、支援教室を再開させた。教育相談コーディネーターと校内教育支援センター支援員（虹サポ）で運営し、子どもの居場所として機能することができていると考えている。学校規模の割には手狭な部屋なので、次年度に向けて校内支援センター（リソースルーム）への他の部屋の転用を検討した。現在、頻繁に使用しない会議室を校内支援センターへ転用を考え、整備するための予算を要求したものの、隣接する音楽室からの音が思いのほか穏やかな環境を妨げることがわかり、再考せざるを得ない状況になっている。すべての児童にとって、学級や学年が安心でき、魅力ある居場所となるように学級経営や学年経営を行っているが、不登校や登校渋りの出現から、必ずしも学校側の考える居場所にはなっていないと言える。</p> <p>今年度もたてわり班活動（異年齢による活動）を実施した。一年間をかけて高学年児童の責任感などが強くなり、中学年・低学年児童との絆が深まっていく過程を目にすると何とも微笑ましい。下級生もリーダーの姿を目にし、数年後の自らの姿のモデルとしていることがうかがえる。</p>	<p>②安心できる居場所づくりと絆づくりの推進</p> <p>●音の問題などたくさんの課題がある中で、支援センターの新しい場所の検討などの推進を行っていることが十分わかる内容である。</p>
--	-----------------------------	---	---

	<p>③いじめ対策の推進</p>	<p>前年度までにいじめ防止対策基本方針を見直していたが、年度初めの悉皆研修後に、さらに改訂をした。未然防止のための日々の取組等が大切であることは言うまでもないが、いじめと思われる、あるいはいじめに発展しかねないトラブルを認知した際に早期の対応を行うことができた。児童指導支援部を中心に組織的に対応を検討し実施できたと考えている。対応のひとつとして、今年度も校長が学年指導を行う場面を作った事案があった。いじめに限ったことではないが、特にいじめに関しては、校長が児童に語りかけ指導する機会が必要であると考ええる。月例の朝会の復活には至らなかったが、オンラインではあるが前年度よりも1回朝会の回数を増やした。話した内容の反応に成果を感じることもできた。</p>	<p><b>③いじめ対策の推進</b></p> <p>●いじめ対応で最も重要なことは早期対応と言われていることが明示されている点が優れている。また、校長自身が学年指導を行っている点も大きく評価できる。</p>
--	------------------	---	--

	<p>③不登校対策・問題行動対策の推進</p>	<p>新規の不登校児童を生じさせないように、魅力ある学校づくりに努めてきたが、不登校の出現率は必ずしも低くならなかった。不登校が続いている児童については、本人や家庭との繋がりを維持できるよう保護者や関係機関との連携を保持してきた。年間通じてほぼ全欠の児童が数名いるが、前年度1日も学校に登校できなかった児童が、担任の働きかけにより数日学校へ足を運ぶことができ、宿泊行事にも参加できた。学校へ気持ちが向くように安心して過ごせる居場所としての校内支援センター（リソースルーム）の設置を急ぐ必要を感じている。暴力等をはじめとする問題行動については、ゼロではなかったが、教職員の努力により、大きなトラブルになる前に対応し、指導できたと思っている。昨年度同様に比較的落ち着いた一年となったと感じている。職員会議や週一回の打ち合わせの際、全教員の共通理解が必要な児童の情報交換を継続的に行った。不登校や問題行動に繋がらない対策になっていたと思っている。</p>	<p><b>③不登校対策・問題行動対策の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●不登校児童対応は、それぞれの児童の不登校の理由が明確でない場合が多くは個別対応になる。その中で、前年度ほぼ全休だった児童が担任の働き掛けで数日学校に足を運び、宿泊行事にも参加できたのは大きな成果である。通常の授業にも参加ができるようなサポートをさらに期待する。</li> <li>●暴力行為を中心とした問題行動も全教員がその児童の特性を理解して対応しているということが成果につながっていると思われる。</li> </ul>
--	-------------------------	--	--

	<p>④幼・保・小、小・中の連携推進</p>	<p>毎年2月には、新就学予定の園児たちを招いて、小学校の環境に園児に慣れてもらうために「ようこそ集会」を企画している。幼保小の連携を図る大切なイベントのひとつであるが、今年度は他校と日程がかぶってしまったこともあり、幼稚園・保育園にはご迷惑をおかけしてしまった。日程の確定等は学年に任せているが、運動会などと同様に他校との調整を図る必要があることをあらためて認識した。連携を推進させているとは言い難いが、繋がりや関係を構築する一助にはなっていると考えているので、さらに手を広げることは難しいが、現状は維持したいと考えている。</p> <p>例年のように、市教育委員会が主催している担当者会議に担当が参加し、同じく参加している幼稚園・保育園等の施設との連携および情報共有をしてきた。年度末に次年度の新就学児童が在籍する幼稚園・保育園を幼稚園・保育園を訪問させていただき、園での様子等を参観させていただく機会を本年度も設けた。新1年生がより良い環境で小学校の生活をスタートさせる準備をするために有意義な連携となった。今後、より良い連携を行っていくために、卒園した幼稚園・保育園の先生方に学校の様子を見ていただく機会は設けることも考える必要がある。</p> <p>年度末に、中学校進学時のクラス編成の参考となるよう、引き継ぎの機会は設けているが、小・中の連携とは言い難い。かなり以前は、より専門性の高い中学校の教員が、小学校で授業を行ったり、生徒会の生徒が小学校へ赴き中学校生活を説明しにきたり、中学校に赴いて部活動の体験をしたりしていたが、その機会がなくなってしまった。</p>	<p><b>④幼・保・小、小・中の連携促進</b></p> <p>●1年生の壁と言われる小学校低学年での問題は、小学校への入学前からの対応が必要であり、その点が推進されている点が大変優れている。</p>
--	------------------------	--	---

Ⅲ 学校組織の充実	①学校・学年・学級経営の充実 ○	<p>今年度も、学校経営の方針を年度当初に提示・説明し、本年度の教育活動を開始した。後期始まりの振り返り地点では、再度教職員に経営方針や防災マニュアル等の読み返しを促し、意識させることに努めた。また、年度の始めに学級経営の方針や専科指導方針を作成・提出させた。</p> <p>昨年度までは管理職止まりとしていたが、学級を運営する担任や教科指導担当の考えや思いを知ることができ、参考になることが多く記載されているので、作成者の了解を取り、共有できるようにした。いろいろな考えや思いを共有することで、教職員が一枚岩となると考える。次年度も継続するとともに、他の方策も試みたいと考える。</p>	<p><b>①学校・学年・学級経営の充実</b></p> <p>●4月当初だけでなく、年間を通して教職員が一丸となって対応している点が感じられる。効果的な活動であると思われる。</p>
	②研究・研修の充実	<p>逗子市教育委員会からの委託研究を校内研究として進めた。GIGAスクール構想の推進に伴いテーマとして掲げた ICT 機器の活用については、講師からはかなり充実していると評価をいただいたこともあり、昨年度末までに一つの区切りを見ることができた。この間力を入れることができなかった教科指導法について、今年度は新たな主題として研究を取り組んできた。基本中の基本であり、外国語科を除いたすべての授業の中心言語である国語科の授業力向上を主題の中心に据えた。初年度としては、全教員で熱心に取り組むことができたと思っているが、研究によって得られた成果が一時のものにならないよう、少し長いスパンで取り組んでいきたいと考えている。</p>	<p><b>②研究・研修の充実</b></p> <p>●GIGA スクールを想定した ICT 機器の活用については非常に効果が上がっている様子がうかがえる。</p> <p>●各教科の指導において、日本語力の向上に取り組んでいることは大変評価として高い。長期的に全教科での対応が期待される。</p>

	<p>③信頼に基づいた指導の推進</p>	<p>体罰と言える事案はなかったが、不適切とは言わないまでも対応がうまくいかなかった案件はいくつかあった。保護者や地域の方との信頼関係が崩れると、失った信頼を再び取り戻すことはかなりの時間を要する。信頼を損なう対応が起こらないよう、素早く丁寧な対応を常日頃から行わなければならないと思っている。引き続き、教員が研鑽を積めるような機会を提供していきたい。</p>	<p><b>③信頼に基づいた指導の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●どの学校でも殴るなどの体罰は減っているが、表面には表れにくい言葉や態度による体罰への注意がさらに必要であるとを感じる。</li> </ul>
	<p>④働き方改革の推進</p>	<p>スクールサポートスタッフに加え、今年度より教職員庶務補助員が配置されることになり、教員でなくともできる業務を代替していただいた。印刷や教材の準備等のほかに会計事務なども担当していただき、教員の仕事をかなりの部分サポートしていただき大変助かった。しかしながら、早朝に出勤して仕事をしたり、勤務時間終了後に仕事をしたりする教員も相変わらず多くおり、超過勤務の抜本的な解決には至っていない。スクールサポートスタッフだけに限って言えば、どんな規模の学校でも一律（勤務時間）に配置されている状況は変わりなく、市内の公立学校で最大の学級数の本校においては、教員のニーズ全てに応えていただくのは難しかった。</p>	<p><b>④働き方改革の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●部分的にサポートの力が借りられていることは効果的だと感じる。</li> <li>●日本の教員の勤務時間は少なくとも 10.5 時間を超えている。ただし、実際にはこのデータよりもさらに長い勤務を行っている教員が多いと思われる。</li> </ul> <p>学校での対応では不可能であるが、海外と比較して授業時数が多いので、その減少などの本格的な対策が国として必要であると思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専科教員（あるいは得意な教科を担当する交換授業など）は教員の働き方改革につながっていると考える。</li> </ul>